

離陸前、カメラが搭載された機体を整備する関係者



大樹・多目的  
航空公園  
小型無人飛行機の実験4年目に

# 画像伝送に手応え

【大樹】小型無人飛行機の画像伝送飛行実験のほけ、町多目的航空公園などで行われた。独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）と海上技術安全研究所（NRI）、宇宙技術開発（東京、松尾泰社長）の共同研究、海上での救護や監視活動が目的。今年で4年目となる実験では、救命いかたと大型ラゲを横したものを浜大樹沿岸の海上に浮遊させ、同機に取り付けたカメラで上空からの画像を地上局に伝送した。（北雅貴）

今回の実験は、地上局に、救命いかたの屋根と新しい受信アンテナに、救急隊の屋根とや、機体に搭載された送信アンテナの評価などの布を海に浮かべた。確認が主体。JAXAの、宇宙技術開発は大型隕石探査主任研究員、Nクラゲが原因の漁業被害MRIの桐谷伸夫工学博士、宇宙技術開発・宇宙率的な無人機を使って関システム技術部の岡田真係者に情報提供するサイ典マネジャーらが来町ラゲに横した4種類の大きさの、丸形でピンク色に塗ったベニヤ板を海上に用意した。

JAXAが研究開発した全長約2mの機体は、乗用車の屋根に載せられて滑走路を加速し、切り離された。上空に飛び立った機体は自律飛行し、高度250mまで上昇。滑走路から約2m先の海上に浮かんだ目標物を、下向きに設置したカメラで発見し、画像を送る実験を2回行った。

NRIの桐谷工学博士は「画像の映り具合や色の識別などの基礎データの詳細は東京で解析する。目標では、満足いく結果が得られたと手応えをつかんでいる」と話していた。

JAXA、NRIなど合同で実施